

第九章 接續詞

接續詞

語連語節又は文を接續する準體言を接續詞と云ひます。「日本及び支那」は語と語とを接續し、「家の土臺又は鐵道の枕木」は連語と連語とを接續し、

風吹き、且つ雨降る。

氣候も善いし、それに交通も便利だ。

の「且つ」それには節と節とを接續し、

彼は名門の出なり。されど其の行動平民的なり。

あれは病氣だ。それで至つて元氣がない。

の「されど」それは文と文とを接續して居まして、何れも接續詞なのであります。

接續詞の分類

接續詞は其の職能に依つて之を四種に分ちます。

(一) 第一種は物事を累加するものでありまして「また」「又」「および」「ならびに」「並」「かつ」「且」「しかのみならず」「加之」「ついで」「次」「なほ」「尙」「しかして」「しかうして」「而」「さうして」「そして」「それに」「そのうへ」「それから」等は此の種に屬するもの

てあります。^(△は口語ばかりに用)例へば

金閣並に銀閣は足利氏の建てたるものなり。今春奈良に遊び、
いて吉野に行きたり。

まづ象を船にのせました。さうして船の水につかつた所に印を附け
ました。私からも申しますが、なほ貴方からも話して下さい。

(二) 第二種は物事を選択するものでありまして、または「又」もしくは「もし
は若」あるひは「あるは或」は「た將」なかんづく「就中」それとも等は此の種に
屬するものであります。例へば

巡洋艦は戦艦と共に敵に當り、或は敵の港灣及び軍艦の情勢を探る。
行くかはた止まるか。

承諾したのだらうか。それともしないのだらうか。

(三) 第三種は上の事情と、其の事情から起つた當然の結果とを接續するもの
でありまして、しからば「さらば」しかれば「されば」それでは「かくて」これ
をもつて「これにおいて」したがつて「よつて」ついては「ゆゑに」それで「それだか
らだから」それですからですから「それならそんなら」そこで「さうするとす

ると「さうすればすれば」さうしたらしたら等は此の種に屬するものであります。例へば

犬は眠れる時も人の足音を聞けば直ちに目をさます。されば夜を守らしむるによろし。中部に廣漠たる沃野あり。したがつて米穀を多く産す。

固より強い日本兵にはかなひません。そこであそれと和睦を申込んで來ました。ゆうべうちの犬が鳴き出しました。すると近所の犬がみんな鳴きだしました。

(四) 第四種は上の事情と其の事情から起る反對の事情とを接續するものでありまして「しかれどもされど」しかるにさるに「さりながら」しかしながら「しかし」たゞし「それだけれどもだけれども」それですけれどもですけれども「それだかだが」それですがすが「それだのにだのに」それですのに「それでもでも」それに「それのに」もつとも「ところが等は之に屬するのであります。例へば

古社寺等の昔の儘にて今に残れるは甚だ少し。然るに法隆寺は昔

ながらの形を存せり。」傍聴者は袴を着用すべし。但し婦人は此の限に非ず。

今度は随分勉強したようだ。だが矢張駄目だった。明日の會には參ります。尤も雨が降つたら止すかも知れませぬ。

、接續詞には副詞と同形のものがあります。例へば

かつ戦ひ、かつ走る。「それ或は然らむ。」随つて聞けば随つて録す。」
雨ついで来る。

雨が又降り出した。

の「かつ」或は「随つて」「ついで」「又」の如きものはそれであります。それで克く其の職能を察して之を區別するやうにしなければならぬのであります。